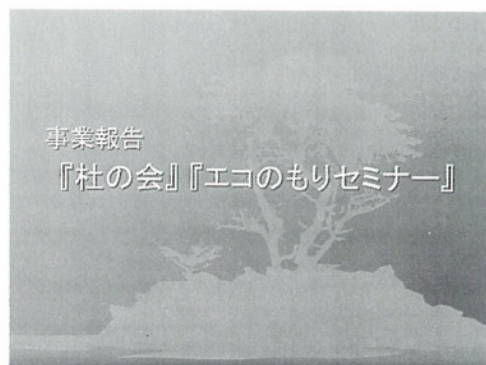


報告／中村 貞次  
 (トヨタ自動車株式会社総務部長)

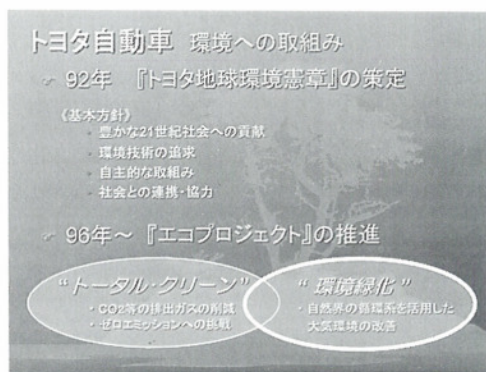


私どもトヨタ自動車が、皆様のご協力を得まして進めてまいりました、環境への取り組みの一つの柱であります『トヨタの森』計画について、『杜の会』と『エコのもりセミナー』の活動状況を中心にご報告をさせていただきます。



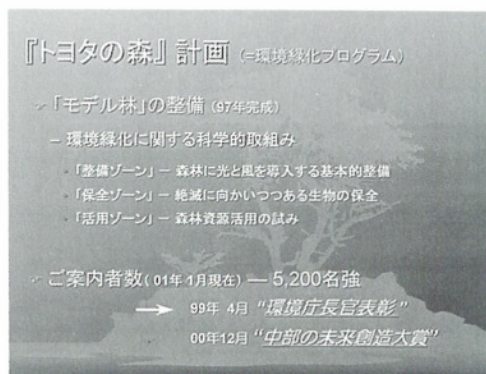
先ほど、社長の張が申しましたように、私どもトヨタ自動車は、これまで『地球環境との調和』を経営上の重要な課題と考え、まず、92年には『トヨタ地球環境憲章』を策定し4つの基本方針のもとに、豊かな21世紀の社会を築くために、本格的な環境への取り組みをスタートさせました。

また、96年からは、『トヨタ・エコプロジェクト』を立ち上げ、排出ガスの低減、自動車ライフサイクルの全段階におけるゼロエミッション、即ち『トータル・クリーンな車づくり』に挑戦しています。あわせて、この『トータル・クリーンな車づくり』への取り組みを補完する位置づけで、自然界の循環系を活用し、大気環境を改善する『環境緑化』活動に取り組んでおります。これが、『トヨタの森』計画であります。



『トヨタの森』計画においては、97年に実験フィールドとして、愛知県豊田市に『フォレスタヒルズ・モデル林』を整備し、環境緑化に関する科学的取り組みを展開してまいりました。ここでは、『モデル林』全15ヘクタールを整備・保全・活用の3つのゾーンに分類して、各種実験や様々な環境技術の導入等について検討を行っております。

このモデル林には、現在までに5,200名の方にお越しいただきました。また、専門家の方からも高い評価を頂戴し、99年4月には『環境庁長官表彰』を、2000年12月には第一回の『中部の未来創造大賞』を受賞いたしました。



ご参考までに『モデル林』での取り組みの様子をいくつかご覧いただきたいと思います。

これが、『モデル林』の入り口となっています。

『フォレストタビーズ モデル林』 取り組みについて



こちらは、典型的な『整備林』の様子です。元は荒れ放題の藪状態であったところを2/3ほど除伐整備をいたしました。今では多くの野鳥の観察スポットとなっています。

『整備ゾーン』— 森林に光と風を導入する基本的整備



整備林

次は、『自然林化試験区』です。森は手入れをせずに放置していると、藪状態の暗い森になってしまいます。ここでは、針葉樹・広葉樹、常緑樹・落葉樹、大きな木・小さな木といった様々な木が適度に交じり合った、いわば自然な林に誘導していく試験を行っています。

『整備ゾーン』— 森林に光と風を導入する基本的整備



自然林化  
試験区

これは、保全ゾーンにあります『周伊勢湾種保全試験区』です。シデコブシなど、湿地性の貴重植物を効果的に保全していくための手入れ方法を中心に研究しています。

『保全ゾーン』— 絶滅に向かいつつある生物の保全



周伊勢湾種  
保全試験区

こちらは、『湿生生物観察園』です。常時開放の保全レベルに設定してあり、年中、ハッチョウトンボやヒメタイコウチ（水生昆虫）、クロメダカといった昆虫や魚、また、シデコブシなどの植物を身近に楽しむことができるゾーンとなっています。



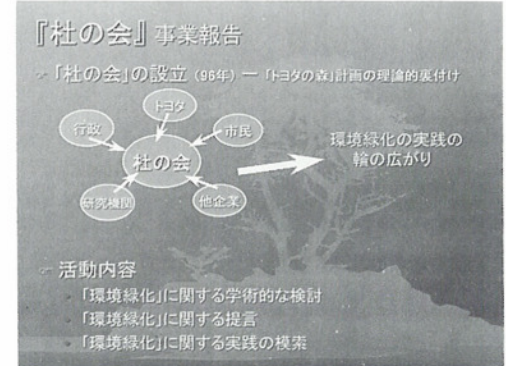
これは、『炭による水質浄化試験区』です。5基のユニットには、細かく砕いた備長炭が入っており、微生物の力を借りながら水質改善を進めています。

この他にも、様々な試験区があり、ガイド付で、およそ2時間かけて一周するのが標準コースとなっています。



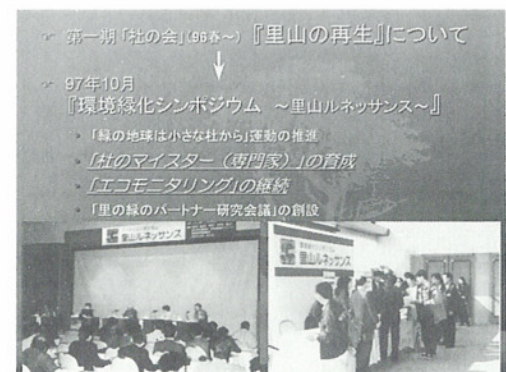
次に、これまで述べてまいりました『トヨタの森』計画の理論的裏付けを得ることを狙いとして、96年に設立いたしました『杜の会』についてご報告いたします。

ここでは、学識経験者を中心に、行政・市民団体・研究機関などの様々なセクターからのご参加を得て、『環境緑化』に関する専門的・学際的な検討が行われ、広く社会に対し、多くの提言が行われました。

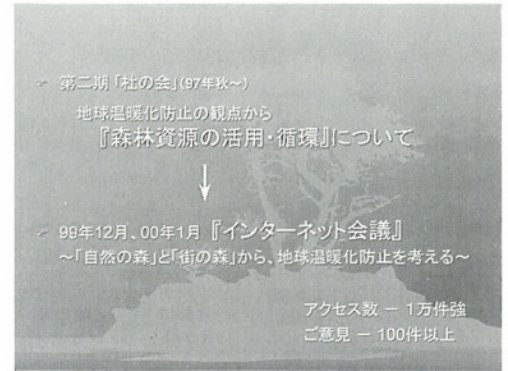


『杜の会』は二期にわたって活動し、『環境緑化』に関する検討と提言を行いました。

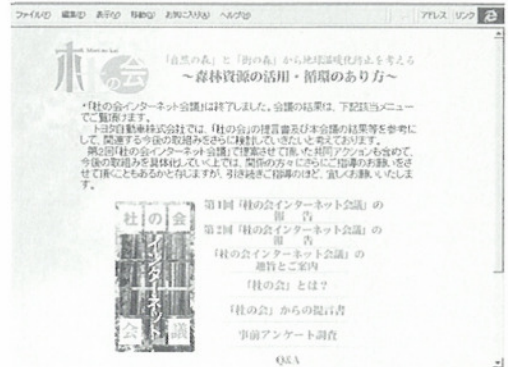
第一期の活動では、『里山の再生』をテーマに検討が行われ、その結果は、4つの提言に取りまとめられました。97年10月には『里山ルネッサンス』と題しまして、『環境緑化シンポジウム』を開催し、この提言に関する意見交換が行われました。特に、『杜のマイスター』の育成と『エコモニタリングの継続』については、この提言を受ける形で実践活動に入っており、着実な成果をもたらしております。



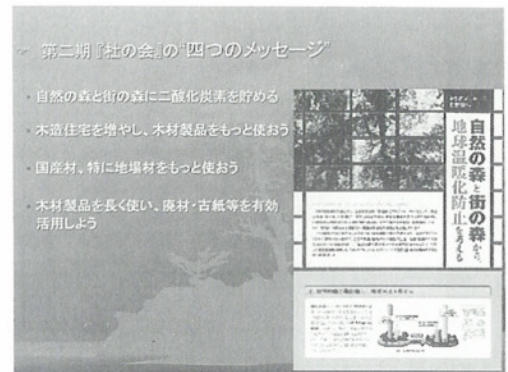
引き続き、第二期の活動では、地球温暖化防止の観点から、『森林資源の活用・循環』についての検討が行われました。ここでの検討内容は、99年12月と2000年1月の二回にわたって、『杜の会インターネット会議』において提言されました。インターネット会議には、1万件以上のアクセスと100件以上のご意見を頂戴し、多くの『環境緑化』関係者の皆様にご参加いただきました。



これが、『インターネット会議』のトップページです。このページを通じ、皆様から貴重なご意見を頂戴いたしました。



また、第二期『杜の会』の検討内容は、『四つのメッセージ』として、このようなリーフレットにもまとめられました。



最後に、98年より3年間にわたって、『日本環境教育フォーラム』と一緒に取り組んでまいりました『エコのもりセミナー』についてご報告いたします。

『エコのもりセミナー』では、『杜のマイスター』、つまり『これからの環境緑化を支える人材』を創出することと、そのための具体的なモデルの提示を試みてまいりました。主な事業内容としましては、『里山インタープリターズキャンプ』、『森遊び倶楽部』、『森づくりミーティングフェスタ』の3つのプログラムを中心に実施してまいりました。その詳細につきましては、この後スライドを用いてご紹介申し上げます（巻末資料参照）。

以上を持ちまして、当社の「トヨタの森」計画から始まりました環境緑化への取り組み「杜の会」と「エコのもりセミナー」の事業報告を終了させていただきます。

